

- JAアルプス管内のコシヒカリの出穂期は、平年より5～6日程度早くなっています。
- 平年に比べて、刈取開始時期が早まることが予想されるため、刈遅れに注意しましょう。
- 急激な乾燥を防止することで、胴割米のない高品質なアルプス米に仕上げましょう。

1 コシヒカリの適期刈取り



【YouTube】
16 収穫作業

胴割米が1番
困るんだよね



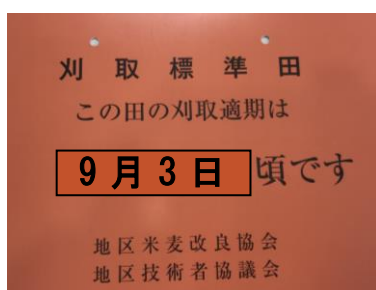
< 胴割米 >



- ・収穫時期は籾の黄化程度で判断し、籾黄化率 85%を目安に刈取りを始め、適期内に刈取りが終了するよう努めましょう。
- ・砂壤土や枯上がりの早い圃場から刈り始め、刈遅れによる胴割米の発生を防ぎましょう。

【コシヒカリの出穂期別刈取時期の目安】

出穂期	刈取適期(※) 籾黄化率 85%
7月28日	9月3日頃
7月30日	9月5日頃



地域により成熟期に差があるため、必ず「刈取適期表示札」を参考にして下さい。

(※) 近年値(H28～R7)の平均気温で推移した場合

2 適切な乾燥調製で胴割米の発生防止



【YouTube】
17 乾燥作業



【YouTube】
18 調製作業

- 毎時乾減率 0.6%以下でゆっくりと乾燥し、玄米水分 14.5～15.0%に仕上げましょう。

【乾燥作業の注意点】

- ① 水分ムラを小さくするため、2～3時間の通風乾燥を行う。
- ② 送風温度を機種標準より5℃程度下げ、ゆっくり乾燥する。
- ③ 籾水分 17%程度で一度乾燥を止め、半日程度休止した後に再乾燥する。
- ④ 籾水分が 17%以下になったら、手動水分計でこまめに水分をチェックする。
- ⑤ 下表の青米の混入状況に応じた乾燥機停止時の玄米水分で乾燥機を停止する。

【乾燥機停止水分の目安】

玄米 100 粒中の青米粒数	乾燥機停止時の玄米水分	乾燥機停止後の水分変化
5粒以下	15.0～15.5%	乾く(－0.5%)
6～10粒	14.5～15.0%	ほとんど変わらない
11粒以上	14.0～14.5%	もどる(+0.5%)

3 カントリーエレベーターやライスセンターからのお知らせ

- ・平日利用助成、カントリー持込助成、高温耐性品種利用助成、大口利用助成の各種利用助成制度を利用しましょう。
- ・コシヒカリの平日利用助成の設定日は 9/3(木)～9/4(金)追加、9/7(月)～11(金)です。

生産記録簿は、出荷時や乾燥調製施設利用前にJAに提出して下さい

4 土づくり対策



令和8年J Aアルプス夏期懇談会資料7、8ページをご参照下さい。

【YouTube】1土づくり

高品質・安定生産に向け、
この秋「土づくり」に取り組
みましょう！



「秋の土づくり運動」 9月15日～11月15日

健全な土壌は、高品質アルプス米の生産に必要不可欠です。
次年度の米づくりのため、秋からしっかり土づくりを行いましょう。

(1) 土壌改良資材の継続的施用

J Aアルプス管内の土壌の特徴は、土壌pHが低く（酸性化）、ケイ酸分が不足しています。
不足分を供給できる土壌改良資材を施用しましょう。

【土壌改良資材の標準施用量と施用効果】

資 材 名	10a当たり施用量	ケイ酸分(%)	アルカリ分(%)	施 用 効 果
粒状ケイカル	200 kg	30.0	45.0	ケイ酸を供給して茎や葉が強くなる。倒伏やいもち病に対して抵抗が増す。
アサヒニューテツ	100 kg	20.0	30.0	鉄、ケイ酸、苦土を含み、ごま葉枯病対策等に効果がある。
シリカロマン	100 kg	25.0	45.0	ケイ酸の他、鉄、リン酸、苦土が一度に供給できる。
シンキョーライトP	100 kg	(66.1)	—	天然ミネラルを含み、根張り促進、保肥力を改善できる。

(2) 秋耕しと排水性の確保

- ・貴重な有機資源である稲わらやもみ殻は、必ず土壌に還元しましょう。秋耕しは気温の高い10月中に実施し、腐熟を促進することで、翌年の田植え後のわきの発生を抑え、初期分けつの確保にも繋がります。
- ・秋耕しにより「ひこばえ」の発生を防止することで、①越冬する斑点米カメムシの密度抑制、②サルやイノシシの圃場内への侵入防止、③翌年に異なる品種を作付けする場合（特に直播時）のこぼれ種による異品種混入リスクの低減、等の効果があります。
- ・秋耕後は排水溝を設置して、圃場の水はけを良くしましょう。



(3) 有機物の施用

- ・有機物の施用により、土壌の腐植を増やし、保肥力を高めましょう。
- ・稲わらのすき込みに加え、特に腐植の少ない圃場では堆肥を積極的に施用しましょう。
- ・堆肥の確保が困難な場合は、発酵鶏ふんの施用や緑肥作物の栽培・すき込みを行いましょう。

【緑肥作物（冬作物）】

作物名	播種時期	10a 当たり播種量
ヘアリーベッチ 又は レンゲ	水稻刈取り後～10月中旬	3～4 kg

【堆肥施用の目安（秋施用の場合）】

資材名	10a 当たり施用量
発酵鶏ふん	100～150kg
牛ふん堆肥	1～2 t
豚ふん堆肥	1～2 t

<緑肥作物栽培上の注意点>

- 基本的に肥料不要です。
- 初期の湿害に弱いので、排水対策を実施してから播種しましょう。
- 播種時期が遅れると生育量の確保が困難になるため、出来るだけ早い時期に播種しましょう。

○「ごま葉枯病」 ～葉にごま粒状の病斑がでます～

- ・ごま葉枯病の発生は、土壌条件や稲体の栄養条件と関係が深く、生育後半に稲体活力が低下した場合や、土壌養分である「ケイ酸」、「カリ」、「鉄分」などが少ない圃場で多発します。
- ・今年度発生が見られた圃場では、積極的に「土づくり」に取り組み、ごま葉枯病の発生抑制に努めましょう。



～農業用機械で道路を汚したら、必ず掃除しましょう～